

| 評価項目 | 重点目標 | 重点目標に関する取組と指標 ○：取組 ★：指標 | 第一次自己評価 | 学校関係者評価 実施日：平成 25 年 3 月 12 日 | 最終自己評価 (第一次自己評価からの変更点や改善方策) |
|---------------------------------|---|---|---|---|---|
| <p>確かな学力の育成 (教育委員会設定項目)</p> | <p>目標を定め、意欲的に授業に取り組む生徒の育成 【本校の今日指す生徒像 1】</p> | <p>○ チャイムで始まりチャイムで終わる 50 分の授業の徹底 ★ 50 分間の授業で、「分かる授業」「楽しい授業」等の質の向上を図ることができたか ○ 放課後学習支援はじめ補充教室の充実 ★ 年間を通して計画的に実施することができたか。 ○ ICT 活用による授業を促進し、指導要領のめざす思考力判断力表現力の向上を目指す ★ ICT を活用した研究授業および言語活動を実施し、学校全体の授業力の向上が図られたか。</p> | <p>● 教員が始業時には教室にいることを意識して実践してきた。その結果、概ね良好であったが、生徒の教室移動が遅いこともあった。 ○ 放課後の学習支援は、生徒の希望が少なかったが、希望者に対してはきめ細かい指導ができた。定期考査前の学習教室や長期休業中の補充教室なども定着してきた。 ● ICT 機器の利用が恒常化している教科が固定しており、教科によって、教員によって活用に偏りがある。</p> | <p>・ 教師の真剣な姿と学習指導の創意工夫により生徒は意欲的に楽しく授業に取り組んでいる。 ・ ICT 機器の活用については、生徒の各教科の興味、関心を持たせるために PC やデジタル教科書、実物投影機の有効活用するよう期待する。 ・ 生徒が授業の中で理解できないことをそのままにせず、質問する場(時間)がほしい。生徒の疑問、課題に応えるためワークシートに Q&A 欄を設けるなど工夫するとよい。</p> | <p>○ チャイムで始まりチャイムで終わる 50 分の授業の徹底を継続していく。基礎基本を授業内で定着させるために、振り返りテストや質問等の工夫をして授業の質的向上を図る。また、学力の定着の検証方法を工夫する。 学習支援を要する生徒には放課後や定期試験前、長期休業中の学習支援を行っていく。 ○ ICT 機器の活用が全教科にわたるようにする。</p> |
| | <p>【今年度の重点課題 1】 学習指導要領の確実な実施による基礎基本の定着と活用力の育成</p> | <p>○ 生徒の授業への主体的な取り組みの促進と、自主的な学習習慣の定着 ★ 各教科で単元の初めでシラバスの効果的な活用ができたか。 ○ シラバスを活用した学習指導要領の適切な実施 ★ シラバスを活用し、授業改善と生徒との授業の共有化を促進できたか。</p> | <p>● シラバスの活用が年度当初に限られている教科があった。教員の意識が不足していたり、シラバス自体の使い勝手が悪かったりした。 ○ 週ごとに時間割を組み替えて、授業時数の確保に努めてきた。学力向上の検証方法に工夫が必要である。</p> | <p>・ 各教科が作成したシラバスに基づいて学習指導が進行しているか教科担任に確認し、基礎基本の定着を図りたい。 ・ 基礎基本の定着は、生徒の理解度の問題である。楽しい授業とは分かる授業であろう。 ※ 重点目標の達成のために、次年度のシラバスの内容を整理し、有効活用するよう学年ごとのシラバスを作成する。</p> | <p>○ シラバスが年間通して活用できるように学年分冊として、手元において単元の初めで効果的に活用できるようにする。 ○ 授業時数の確保はできたので、生徒一人一人が授業中に主体的に学ぶ授業の構築と、家庭学習の習慣を身に付けさせて、学力向上を図る。</p> |
| <p>豊かな心の育成 (教育委員会設定項目)</p> | <p>自他を尊重し、社会性と思いやりのある生徒の育成 【本校の今日指す生徒像 3】</p> | <p>○ 全校給食の円滑な運営での「善意の集団づくり」の推進 ★ 生徒と教員との協働による配膳・片づけを通して、信頼関係を深め、全校体制での指導の基盤を作ることができたか。 ○ 地域行事やボランティア活動への自主的な参加促進 ★ 生徒会活動の活性化により、全生徒の社会参画意欲の向上を図ることができたか。 ○ いじめ、不登校へ組織的対応体制の確立 ★ いじめの早期発見・早期対応。不登校はゼロを目指す。</p> | <p>○ 全校給食の円滑な運営を行ってきた。生徒の意識も高く、全校体制で指導ができた。集団としての意識は高い。 ○ 生徒会活動の給食委員会、生活委員会などで、校内キャンペーンを実施し活性化をはかることができた。校外のボランティア活動では、地域レクレーション、あかね苑訪問など例年実施していることを継続した。 ○ いじめへの対応を適宜行ってきた結果、継続しているいじめ事例はない。 ● 夏季休業明けから不登校生徒が増加してしまった。</p> | <p>・ 生徒のアンケートでは全般的に協調性は高く、学年や学級にとどまらず、交流できるオープンな雰囲気牛込一中の良い点である。特に全校給食では全校の生徒と先生の円滑な運営はすばらしく誇るべき伝統によりマナー向上や思いやりが育っている。 ・ 協働作業、地域活動など積極的な取り組みが見える。 ・ 発展性のある地域との交流により社会性が高められる。</p> | <p>○ 全校給食の円滑な運営を継続し、そこで培われた信頼関係を基盤に教育活動の充実を図る。 ○ 生徒による主体的な活動の企画や校外のボランティアを実施している。 ○ いじめ、不登校への対応を組織として対応できるように、週 1 時間の生活指導部会を活用していく。 ○ 地域人材の活用、地域との交流によって生徒の社会性の向上、思いやりを育てていく。</p> |
| | <p>【今年度の重点課題 3】 あいさつ運動の展開</p> | <p>○ 日常的なあいさつの励行、思いやりのある温かな雰囲気の中での学校生活の推進 ★ 朝のあいさつ運動を基盤とし、学校生活のあらゆる場面であいさつを交わしあえる気風を高め、一人一人を認め合う全校体制が推進できたか。</p> | <p>○ 生徒会の朝のあいさつ運動は定着拡大している。教員の参加も増えている。 ● 朝のあいさつに比べると、授業の前後や休み時間、放課後等のあいさつが少ない。</p> | <p>・ 生徒は大変によく、あいさつを交わしている。 ・ 教職員が来訪者、保護者、そして生徒にもあいさつすることの手本を見て育っていることと評価する。 ・ 「あいさつ」は運動によってではなく、人として自然な姿でありたい。「運動」することではない。</p> | <p>○ あいさつ運動であいさつが定着してきたので、学校生活や家庭生活の中でも自然な形にしていく。</p> |

様式 1

| | | | | | |
|--|---|--|---|--|---|
| <p>体力の向上 (教育委員会 設定項目)</p> | <p>心身を鍛え、逞しく生き 抜く生徒の育成 【本校の今日指す生徒像 4】</p> | <p>○ 全校給食を通しての、食育指導の充実 ★食事マナーの向上、残菜の減少、安心、安全、楽しい給食に努めることができたか。</p> <p>○ 部活動(運動部)を通して、心と体の調和のとれた発達 ★外部指導者を含め指導体制の強化を図ることができたか。</p> <p>○ 安全安心な学校生活を送るための安全教育の充実 ★安全教育年間指導計画に沿って実施できたか。</p> | <p>○全校給食での食事マナーは徹底した指導ができ、残値も減っている。特別活動、教科、道徳などでも食育を実践し、生徒の意識が向上した。</p> <p>○外部指導員を活用して部活動を継続することができた。さらに、部活動も新設し、指導に当たっている。</p> <p>○初めて、引き渡し訓練を行った。避難訓練の実施形態に工夫をして実施することができた。</p> | <p>・牛込一中の給食指導、部活動指導の取り組みについて保護者、生徒、関係者からの評価が高い。</p> <p>・生徒の健康のための食育指導が充実し、給食を通して食事のマナーも身に付き、意識を高めている。</p> <p>・部活動に積極的に参加し、自己を鍛えているが、3年生の受験期でも心身の健康のために、運動することを奨励したい。</p> | <p>○全校給食を通してマナーの向上、残さいの減少、楽しい給食が実施できた。今後さらに食育を意識した教育活動と連携していきたい。</p> <p>○現在ある部活動の充実を図っていく。</p> <p>○安全教育に加えて防災教育の長期計画に着手していく必要がある。</p> |
| <p>特色ある教育 (教育委員会 設定項目)</p> | <p>学び続ける姿勢で、自己 実現を目指す生徒の育成 【本校の今日指す生徒像 2】</p> | <p>○ 「牛一ネオタイム」による生徒の思考力、判断力、表現力の伸長 ★各指導時間を検証し、時間的短縮に対応した質的向上を目指すことができたか。</p> <p>○ 3年間を見通したキャリア教育の意図的、計画的、継続的实施 ★全校体制での「上級学校を知ろう」「校内ハローワーク」を中心に、各学年で発達段階に応じた指導を充実させることができたか。</p> | <p>●「牛一ネオタイム」の時間短縮に対応した質的向上を目指したが、時間の問題ではなく「牛一ネオタイム」の形骸化が課題である。次年度に向けて再構築する必要がある。</p> <p>○「上級学校を知ろう」「校内ハローワーク」を中心に1年生の職業調べ、2年生の職場体験、3年生の上級学校訪問・進路実現等、キャリア教育の充実を図ってきた。</p> | <p>・総合的な学習の時間「牛一ネオタイム」では1年生から3年生までの縦割り集団による学びが本校の特色である。</p> <p>・学習にかける時間的や課題設定、調べ学習、内容の発展・進化、発表の方法など再考し、「ねらい」を明確にして教職員の指導の確立を図りたい。</p> <p>・キャリア教育、職場体験学習は多くの協力を得て充実している。</p> | <p>○「牛一ネオタイム」の時数は減少するが、テーマ設定の方法の変更、縦割りを生かしたチューター制の導入、地域のゲストティーチャーの活用、プレゼン能力伸長をねらいとした指導の充実を図る。</p> <p>○キャリア教育は充実しているので継続していく。</p> |
| | <p>【本校の重点課題 2】 読書活動の充実と学校 図書館の有効活用</p> | <p>○ 朝読書の定着と、学校図書館の有効活用 ★朝の10分間の読書の充実を図ることができたか。 ★図書館スタッフの有効活用により、昼と放課後の毎日の学校図書館開放を実施することができたか。</p> | <p>●今年度から朝読書の時間を時程の中に組み込んだことで、定着してきたが、学年によって取り組みに温度差があり、指導の課題がある。</p> <p>○学校図書館スタッフの支援を得て、牛一ネオタイムでの活用などができた。一方、次年度から導入の司書との連携活用が課題である。</p> | <p>・朝の読書活動は、その目的を各学年で異なることなく、教職員の意識を高めたい。</p> <p>・図書館からの貸出し図書数が少ないことを感じている。教職員も生徒との交流を深めるためにも積極的な図書館の活用を期待する。</p> <p>※次年度は学校図書館司書の配置が予定されている。</p> | <p>○図書指導や全学年での朝読書の充実を図る。図書委員の指導も拡大していきたい。教員と図書館スタッフとの連携を図り、効果的に活用するようにしたい。</p> |
| <p>連携強化を 目指す長期的な 課題 (本校独自の 設定項目)</p> | <p>小中連携教育の推進</p> | <p>○ 互いの教育活動に支障がない範囲で、無理のない連携 ★全教員が小学校の学校公開に参加し、更に、出前授業により、小学校教育への理解が深まったか。</p> <p>○ シラバス配布、合同研修会の実施により9年間の「学び」の継続の促進 ★小学校との交流を通して、相互理解が深まったか。</p> | <p>●今年度実施できたのは、2月27日に行う、市谷小学校との連携交流会のみで、発展充実できなかった。</p> | <p>・小学校との連携教育が十分に推進されているとは言い難い。単に出前授業にとどまらず、生徒と児童との関わりの連携教育を中期・長期的に構築していくことが重要である。</p> <p>・小中連携の「ねらい」を相互に明確にしなければ進められるものではなく、意義あるものであるよう検討したい。</p> | <p>○小中連携のねらいを明確にし、ねらい達成のために現在行っていることの見直しと真に有効な連携を図りたい。</p> |
| | <p>地域と共に歩む学校づくり</p> | <p>○ 授業公開および運動会、一中祭での十分な公開 ★各学期1回の土曜公開の新設等により、保護者、地域からの本校への理解を深めることができたか。</p> <p>○ 外部の意見を尊重した学校評価 ★保護者の意見、学校関係者評価結果を、次年度へ向けた学校改善に十分に生かすことができたか。</p> | <p>○学校側からは、本年度各学期1回ずつ土曜公開を行い、地域の方や保護者にご理解ご協力をいただいていた。</p> <p>●学校改善に向けてアンケートを実施し、次年度の教育課程編成の参考とした。次年度のアンケート項目、実施回数を改善したい。</p> | <p>保護者のアンケート結果から学校が積極的に生徒の活動の様子や教育活動を公開していることにより理解を深めている。学校行事には多くの地域の方々が参加している。</p> <p>・中学生は地域の大きな力となることを地域に理解してもらうことが必要な時である。(防災訓練の際などに)</p> | <p>○地域の教育力はもっと本校の教育活動に生かすことができると考える。学校からの働きかけをしたい。</p> <p>○学校公開や一中祭には地域から多くの方が来校されている。この実績を大切に、生徒の活動との結びつきを強めていきたい。</p> |
| | <p>【本校の重点課題 4】 各種便りやホームページによる 学校情報の発信</p> | <p>○ 各種便りやホームページによる学校情報の発信 ★学校教育への理解を得ると同時に双方向コミュニケーションツールとしてホームページの活用を図ることができたか。</p> | <p>○学年便りは保護者からの反応があり、双方向のコミュニケーションツールとして一定の役割を果たした。ホームページでの情報発信も行うことができた。</p> | <p>・学校たより、ホームページは保護者や地域の方々には毎月の情報を楽しみにしている。</p> <p>・玄関には「学校たより」「PR誌」などを置き、自由に持ち帰られるよう情報の発信はよく工夫されている。</p> | <p>○年度後半にホームページの更新が少なくなってしまった。次年度は年間通して充実を図りたい。</p> |